

IBM Eagle Study

どのITインフラのコストが安くなるのでしょうか？
答えはIT要件とビジネス戦略により異なります。

IBM Eagle Studyは、プラットフォーム間の**経済性の差異の検証**を支援し、お客様が戦略的なITインフラを決定するための推奨事項をご提示します。基本は無償でご提供可能なソリューションです。

TCOとワークロード配置について

異なるプラットフォーム上のワークロードのコストと利益を比較し最も経済的(TCO:総所有コストで評価)また技術的に適するものを決定します。

Eagle Studyというアセスメントは、ITエグゼクティブに経済性に基づくIT判断のための**ビジネスケース**を提供します。現在そして将来のワークロードについて、コスト削減やROI増加を目的とします。以下のような項目が考えられます。

- よりスケーラブルなサーバーへの**集約**
- スケールアウト型サーバーへの**オフロード(ダウンサイジング)**
- **新しいワークロードの配置**の決定
- 維持費用、**マイグレーション**、一時費用の**定量化**



クラウド/アナリティクス/モバイル/ソーシャル

クラウド、アナリティクス、モバイル、そしてソーシャルは、現在多くのITエグゼクティブが興味をもっているトピックです。Eagle Studyにより、ITエグゼクティブはコスト効果の高い実装方法を見出すことができます。例えば以下のようなケースです。

- パブリック、プライベート、ハイブリッドクラウド環境での機密データ/個人データの**セキュリティの確保**
- **アナリティクス**やビッグデータ・ソリューションのための、プラットフォーム属性、効率的なストレージ・ソリューションの活用
- **経費を削減し、購買成約率をあげるためのモバイル**や**ソーシャルアプリケーション基盤**

チャージバック(配賦)分析

シニアITエグゼクティブは**ITコストと配賦方針を紐付ける**必要性をより意識してきています。コストの配賦を適切に行うことで、ITではなくビジネス視点での利用方法の判断を推進できます。この配賦分析によりITエグゼクティブは以下のようなことが可能になります。

- 異なるサーバープラットフォームに配分され、各業務部門へ課金される**実コストの分析**
- 配賦方針が**将来の購買決定**へどのような影響を与えるかを理解する
- 業種/業界を超えて**良い/悪いアプローチ**を学習
- 十分に検討されたモデルを使用し、貴社の配賦方針と貴社の真のITコストとの紐付けをし、**貴社向けにカスタマイズされたロードマップ**と**戦略的ゴール**を作成します。

Eagle Study 実施の流れ

Eagle Studyは、貴社の負担を極力抑えるよう実施され、通常約6週間で完了します。以下の5ステップからなります。

1. **Eagle Study実施のリクエスト**- 担当営業経由または以下のEagleアナリストへ直接ご連絡下さい。
芳尾 俊英 : iqtoshi@jp.ibm.com
笹井 昇一 : sasai@jp.ibm.com
松隈 純滋 : jmatsu@jp.ibm.com
2. **説明会の日程調整** - IBM Eagleアナリストが貴社へお伺いする日時を調整します。初回のお打ち合わせは、2時間程度を予定しています。
3. **初回説明会の実施** - IBM Eagleアナリストが評価手法や過去事例についてご説明します。また、貴社の想定されている評価の目的や貴社IT環境についてのヒアリングを実施させて頂き、その他評価に必要な情報についてご説明致します。
4. **データ分析** - Eagle Studyの実施範囲により追加情報が必要になる場合がございます。分析と報告の準備は弊社内で実施します。
5. **結果報告** - IBM Eagleアナリストが分析結果をご説明します。その場でご質問にもお答えします。

Eagle Study の成果物(例)

Eagle Studyの成果物には下記項目が含まれます。

- 貴社向けにカスタマイズしたシナリオに基づく**詳細なアセスメント結果**
- 貴社のIT出費の削減やコスト増加を回避する**推奨事項**

IBM Eagle Team
IT Economics Practice